



平成 16 年 11 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社ティー・ワイ・オー
代 表 者 名 代表取締役社長兼グループ最高経営責任者
吉田 博昭
(登録銘柄 コード番号 : 4358)
問 い 合 せ 先 取締役経営企画部長兼グループ執行役員
繁松 徹也
電 話 番 号 03-5434-1586

平成 16 年 9 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 16 年 8 月 25 日に公表した平成 16 年 9 月期（平成 15 年 10 月 1 日～平成 16 年 9 月 30 日）の業績予想（連結・単独）を下記のとおり修正致します。

記

1. 連結業績予想の修正等（平成 15 年 10 月 1 日 ～ 平成 16 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	14,500	750	150
今回修正予想（B）	14,961	841	205
増減額（B - A）	461	91	55
増減率（％）	3.1	12.1	36.6
前期実績（平成 15 年 9 月期）	10,567	254	31
対前期比増減率（％）	41.5	231.1	561.2

2. 連結業績予想修正理由

当社グループは「マルチブランド戦略」（当社を事業持株会社とした多数の優秀なコンテンツ制作会社をグループ化する戦略）を着実に実行し、株式公開当時 7 社であったグループが、平成 16 年 11 月 8 日現在では 20 社のグループに拡大しております。

この結果、平成 16 年 9 月期の連結売上高は 14,961 百万円と対前期比 41.5%の増収、連結経常利益は対前期比 231.1%の増益となりました。なお、連結経常利益には「マルチブランド戦略」の実行による営業権および連結調整勘定償却額（約 184 百万円）が含まれており、実質的な経常利益は約 1,025 百万円となります。前回公表値からの主な修正要因は、積極的な営業活動により 9 月度のグループ各社の売上高が好調だったこと、グループ会社数の拡大による売上増加と業務の効率化によりアドミニストレーションコストが相対的に低下したこと等によります。

事業セグメント別の概況は、以下のとおりです。

（1）広告映像事業

広告映像事業につきましては、競合他社との競争が激化する中、TV-CM制作のうち 4 社が増収・増益となりました。また、インターネット広告費増加の追い風に乗じ、WEB制作 2 社についても増収となりました。10 月 20 日に海外プロダクションとのコラボレーションによる映像制作を中心とする会社として新規設立いたしました㈱キラメキにつきましては、平成 17 年 9 月期より連結業績に寄与してまいります。

(2) エンタテインメント事業

エンタテインメント事業につきましては、コンピューターグラフィック制作分野においてハイエンドな技術が業界内外にて高い評価を受け、増収となりました。平成17年9月期以降につきましても、順調な滑り出しとなっております。ゲーム制作分野につきましては、受託開発型での事業展開が安定し、2社ともに黒字計上となりました。アニメーション制作分野においては、平成16年9月期は収益貢献度が低かったものの、平成17年9月期以降につきましても、日仏合作アニメ（総製作費12億円）の制作など、世界市場を視野に入れた事業展開が順調に拡大しております。

(3) コンテンツ・ソリューション事業

コンテンツ・ソリューション事業につきましては、広告映像事業拡大に伴い、ポスト・プロダクション事業（映像編集技術の提供）および撮影関連事業が大幅な増収・増益となりました。また、デジタル素材販売事業においては、ユーザー側の使い勝手のよいロイヤリティーフリー素材市場の拡大に後押しされ、インターネットやCD-ROM販売が順調に拡大し増収・増益となっております。また、前中間期において赤字を計上した企画・プロデュース事業については、経営陣の変革およびコスト面・ビジネス面の再構築により、業績の回復を見せております。

3. 単独業績予想の修正等（平成15年10月1日～平成16年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	5,500	450	250
今回修正予想（B）	5,674	392	187
増減額（B - A）	174	58	63
増減率（％）	3.1	12.8	25.2
前期実績（平成15年9月期）	5,015	138	134
対前期比増減率（％）	13.1		

4. 単独業績予想修正理由

9月度に低利益率プロジェクトが発生したことおよび低利益プロジェクトの評価損を計上したこと等により、前回公表値よりも経常利益が58百万円減少見込みではありますが、平成15年9月期に行ったプロダクションズ本部の再構築によるコストの最適化および営業努力による受注強化により、前年同期比では大幅な増収・増益となる見込みであります。

（注）なお、上記平成16年9月期の（連結・単独）業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と若干異なる可能性があります。また、セグメント別の具体的な数値および平成17年9月期の業績予想につきましては、11月24日の決算発表にて公表予定であります。

以上